

平成 21 年度事業報告

1、概要

特別企画展「奈良の古寺と仏像 會津八一のうたのせて」を翌年度に控え、その準備作業と並行させて、当年度の当館展示・イベントを展開した。

展示部門は會津八一と地元新潟との交流を前面に押し出す企画とした。まず、春の企画展では「街の中の會津八一 第2弾」として公共施設や学校、寺院などが持つ作品などを陳列し、地元密着の足跡を紹介した。夏の企画展では旧高田市に疎開していた写真家濱谷浩の没後10年を記念し、八一との深い人間交流を写真、作品、書簡などで紹介。秋は新潟大学創立60周年記念に合わせて特別展「會津八一と越の学び舎」で、総合大学設立に八一が具体的に参画し、新聞紙面でも「あるべき大学像」を提言し激励した姿を伝えた。冬の新収蔵品展では新潟日報の元社長西村二郎氏の遺族から寄託された軸、額、色紙など貴重な作品と、第3回写真コンテスト入賞・入選作品を並行展示した。

とりわけ新潟大学との連携に重点を置き、入館者と図録販売の増加を図ったが、職員や在学生からの際立った反応もなく、年間入館者は6,987人（前年7,111人、1.8%減）と2年連続低迷し、デフレ不況の影響も打開できなかった。

主催した文芸講演会と学習講座は17回開催で、聴講者数は延べ1,208人。このほか館長の出前講演12回、聴講者数延べ685人、学芸員の出前講座5回、聴講者数164人で、総計2,057人だった。とりわけ神林館長の講演回数は主催と出前と合わせて21回、聴講者延べ1,140人、野中浩俊評議員が4回延べ290人。地の諸団体からの講演要請が急増しており、この傾向は22年度も続いている。

イベントでは「會津八一の歌を映す」第3回秋艸道人賞写真コンテストと第2回會津八一賞懸賞論文コンテストをそれぞれ実施し、授賞式を同日に開催した。写真コンテストでは引き続き共催5、協賛2、協力5の12団体から金銭や物品の支援を受けた。また文学散歩「會津八一の散歩道」を6－10月間で5回実施し、参加者198人だった。

2、事業の内容

- (ア) 展覧会事業 常設展（経費1,400,215円）=前年度1,332,780円比 5.1%増
特別展（経費3,323,142円）=前年度5,234,974円比 36.5%減

	20年度 入館者数	20年度 開催日数	21年度 入館者数	21年度 開催日数	21年度 累計人数
4月	508	22	438	24	438
5月	614	28	983	27	1421
6月	943	25	676	24	2097
7月	946	17	874	25	2971
8月	944	27	586	26	3557
9月	884	20	854	23	4411
10月	598	27	1027	27	5438
11月	552	26	635	26	6073
12月	229	12	70	8	6143
1月	280	23	285	24	6428
2月	232	23	202	23	6630
3月	381	25	357	24	6987
合計	7111	275	6987	281	

21年度観覧料収入2,361,440円（前年度2,346,480円比0.6%増）

（特別展）

會津八一と越の学び舎 ～新潟大学創立 60 周年記念～

（平成 21 年 9 月 19 日～11 月 29 日 開催日数 64 日間）

特別展では新潟大学創立 60 周年にちなみ、會津八一と新潟大学をテーマに企画。八一は、昭和 23 年（1948）「タ刊ニイガタ」の紙上で 3 回にわたり随筆を発表している。創設されるべき理想の大学について要望を開陳し、大きな期待を寄せていた。

展覧会では、大学所蔵の美術品とともに、親交のあった大学関係者が所蔵する八一の墨蹟や書簡などを展示。さらに“はだかの大將”こと山下清のほり絵作品も陳列。これは、旧制医科大学出身の式場隆三郎が山下清の才能に注目し、清を「日本のゴッホ」として再び世間に知らしめたことによる。式場のプロデューサー的な役割も紹介した。

新潟大学旭町展示館でも「中田瑞穂・高野素十作品展」を同時開催、新潟大学ホームページへの広報、医学部同窓会へ図録案内の DM 送付など、これまで希薄だった大学との連携をはかった。旧制高校出身者や新生の大学時に在学していた卒業生には直接教えを受けた恩師の資料が展示されて好評だったものの、在学生の反応は極めて良くなかった。

入館者数 2198 人（前年度「會津八一が見たラストエンペラーの至宝」2,774 人）

（企画展）

①街の中の會津八一 第 2 弾

（平成 21 年 4 月 3 日～6 月 28 日 開催日数 75 日間）

本展は、平成 18 年に好評を得た「街の中の會津八一」に引き続き、第 2 弾として市役所や新潟市内の小・中・高校、図書館などの公共施設、寺社、料亭、酒造に所蔵している會津八一の作品を中心に展示。市長室、校長室、館長室など格別な用件がなければ見ることも出来ない作品群を一堂に紹介した。街の人々に畏怖されながらも八一が地域に密着していたことがわかりよかったという感想が得られた。しかし借用先の学校へチラシを配布したものの、入館者数には結びつかなかった。

入館者数 2097 人（前年度「秋艸道人花鳥風月をうたう」2,065 人）

②没後 10 年 濱谷浩 會津八一博士を写す

（7 月 3 日～9 月 13 日 開催日数 63 日間）

写真家・濱谷浩（1915～99）との 130 通を超える未公開の往復書簡、濱谷浩旧蔵作品などで二人の交流を紹介。また昭和 22 年（1947）、新潟県内 5 都市で開催した濱谷の個展「越後の七人の芸術家」で撮影した芸術家たち（會津八一、安宅安五郎、小田嶽夫、小杉放庵、相馬御風、堀口大學、松岡譲）の関連作品も展示した。濱谷浩の没後 10 年を記念して開催したため、親類、関係者などの来館もあった。他館だと写真の展示は入館者数が伸びないというが、入館者は例年並み。入館者数 1777 人（前年度「八朔郎俳句の世界」1379 人）

③新収蔵品展

（12 月 18 日～4 月 2 日 開催日数 82 日間）

平成 19 年（2007）から平成 21 年（2009）11 月までに、新たに収蔵された作品資料を紹介。新潟日報社元社長・西村二郎氏旧蔵の八一の書画、『會津八一傳』著者・吉池進旧蔵の手形、歌集『寒燈集』の口絵となった喜多武四郎画「會津八一肖像」、八一の養女紀伊子が代筆をした「吉池進宛書簡」などを展示した。その他、書簡など新寄贈、寄託作品を披露することが出来た。同時開催で、第 3 回秋艸道人賞写真コンテストの入賞入選作品も展示。悪天候が続き、交通機関が乱れ、除雪作業が大変だった。入館者数 914 人（前年度「はじめての會津八一」893 人）

(主な来館者)

* 当館理事、評議員は除く

- ・ 4月＝鷺塚泰光・奈良国立博物館前館長（12日）、
- ・ 5月＝月刊絵手紙・山崎編集長（9日）
- ・ 6月＝毎日書道会（5日）、越路高齢者書道クラブ（18日）、長野・飯山書道協会（18日）、専念寺・青木俊秀住職（23日）、勝念寺・今湊良敬住職（24日）
- ・ 7月＝堀口大学の長女・堀口すみれ子さん（3日）、大宮光陵高校（5日）、万代タクシー研修（9日）
ドナルド・キーン博士（11日）、槇島老人クラブ（17日）、風の館館長・坂口綱男氏（24日）
- ・ 8月＝故濱谷弘氏の親類南部弘子さん（1日）、飛鳥園・小川光三社長（1日）、岩波書店多田亜生氏夫妻＝濱谷弘氏の写真管理者（8日）、台湾芸術大学・李銘宗文学博士夫妻（15日）、松濤美術館・角井博前館長（18日）、エッセイスト・16基目歌碑建立呼び掛け人中田紀子さん（21日）、コメリ会長・捧賢一夫妻（22日）、會津八一の叔父友次郎のひ孫宮川明子さん（27日）
- ・ 9月＝谷崎潤一郎の甥相模女子大・谷崎昭男学長（19日）、TVコメンテーター轡田隆史氏（19日）
- ・ 10月＝JR横浜支社・濱田賢治支社長、昆虫写真家・水上みさき母娘（3日）、横綱審議会委員・村山弘義弁護士（18日）、埼玉・郷土文化研究会（23日）、安宅安五郎の義娘・安宅和子氏、尾竹竹坡の子孫・尾竹行子氏（25日）、式場隆史夫妻、新潟日報元社長故西村二郎の娘・西村昌子氏（29日）、網淵謙譲のいとこ・網淵昭三氏（30日）
- ・ 11月＝韓国釜山ステンレス会社・金泰完社長（4日）、比叡山叡山学院院長・堀沢祖門師（15日）
- ・ 12月＝大阪教育大学・萱のり子教授ら論文審査委員一行、トミオカホワイト・長谷部館長（19日）
- ・ 2010年1月＝福光美術館・尾山学芸普及課長（19日）、新潟日産・上原明社長（27日）
- ・ 2月＝写真家・浅井慎平氏（5日）、日本総合研究所・高橋進副理事長、流通ジャーナリスト・遠藤次男氏（10日）、
- ・ 3月＝京都の篆刻家・小朴圃氏、書家・小林畦水氏（2日）、愛郷会・長谷川義明前市長（3日）、西村昌子姉妹（7日）、寄贈者山田又一の義娘山田敬子氏、渡辺和一郎夫妻（12日）、三井記念美術館清水実学芸部長、天野吉雄運営部長（17日）。

(入館者アンケート) 展示等に対する評価＝（＋は好評、－は不評）＝回答数 982 人

	作品解説の評価		展示量への評価		全体的評価	
a) 街の中の會津八一第2弾	＋90%	－7%	＋78%	－19%	＋94%	普通4%
b) 濱谷浩 會津八一博士を写す	＋89%	－10%	＋84%	－15%	＋95%	普通4%
c) 會津八一と越の学び舎	＋88%	－10%	＋82%	－16%	＋92%	普通7%
d) 新収蔵品展	＋87%	－10%	＋77%	－17%	＋90%	普通7%

(イ) 講演会事業

①企画展関連文芸講演会（無料）

テーマ「會津八一の『学規』と現代社会」

講師 轡田隆史氏（ジャーナリスト）

日時 5月1日 午後6時30分～8時

会場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 113人

②企画展関連文芸講演会（無料）

テーマ「父・堀口大学と写真家・濱谷浩」

講師 堀口すみれ子氏（詩人、エッセイスト）

日時 7月3日 午後6時～7時30分

会場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 85人

③八一祭記念講演会（無料）

テーマ「會津八一と小川晴暘 ―学問と写真との出会い―」

講師 小川光三氏（写真家・飛鳥園社長）

日時 8月1日 午後2時～3時30分

会場 新潟市美術館 講堂

入場者 87人

④特別展関連第1回文芸講演会（無料）

テーマ「伯父直木三十五と父植村清二」

講師 植村靱音氏（エッセイスト、植村清二氏の御子息）

日時 10月3日 午後2時～3時30分

会場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 86人

⑤特別展関連第2回文芸講演会（無料）

テーマ「山下清と式場隆三郎」

講師 神林恒道（會津八一記念館長）

日時 11月6日 午後2時～3時30分

会場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 53人

⑥神林館長連続講座（有料）

※前期「印象派とは何か」（4回） 会場はいずれもクロスパルにいがた映像ホール

5月30日「印象派の始まり 近代絵画の革命」 受講者 72人

6月13日「色彩のリアリズム モネとスーラ」 70人

7月11日「ルノワールと印象派」 69人

8月8日「《後期》印象派とは何か セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン」 71人

※後期「抒情画の世界」 4回 会場はいずれもクロスパルにいがた映像ホール

9月11日「竹久夢二ー宵待ち草のやるせなさ」 51人

10月9日「高島華宵ー華宵好みの君も行く」 42人

11月20日「蒔谷紅児ー花嫁御寮はなぜ泣くのだろう」 69人

1月22日「中原淳一ーシャンソン歌手の誕生」 50人

（12月18日飛行便欠航で中止のため振り替え）

（ウ）普及活動事業 出前講座＝参加者負担

①新潟日報カルチャースクール長岡教室「アートの楽しみ」 講師：神林恒道館長

（前期）新潟日報社長岡支社 （3回連続申込者数 34人）

・第1回 10月24日（土）「ミケランジェロとシステナ礼拝堂の壁画」 聴講者 34人

・第2回 11月21日（土）「実録フランダースの犬」 34人

・第3回 12月5日（土）「ゴッホと日本」 34人

（後期）新潟日報社長岡支社 （3回連続申込者数 47人）

・第4回 22年1月23日（土）「絵巻物の世界」 47人

・第5回 2月27日（土）「琳派とは何か」 47人

・第6回 3月27日（土）「浮世絵の国際化」 47人

②新潟良寛会主催 講師：神林館長

4月29日（木）「良寛から會津八一へ」 グランドホテル 100人

③新潟市主催 にいがた市民大学 人間理解コース「美の饗宴」 講師：神林館長

5月15日（金）「美とは何かー東洋の美と西洋の美」 120人

④加茂市公民館主催 講師：神林館長

6月29日（月）「會津八一の美学」 48人

⑤新潟日報社OB「大樹会」 講師：神林館長

7月31日（金）「にいがた映画夜咄」 行形亭 38人

⑥新潟日報社支局長会議 講師：神林館長

10月29日（木）「新潟文化の記憶」によせて 55人

- ⑦関屋地区公民館主催 講師：神林館長
22年2月26日（月）「東洋の眼 西洋の眼」 81人
- ⑧「もめんの花束」主催 會津八一を語る 講師：喜嶋学芸員
・第6回 6月 7日（日）「街の中の會津八一」 10人
・第7回 9月27日（日）「會津八一と越の学び舎」 13人
- ⑨いきいき男のセミナー 講師：湯浅学芸員
7月13日（月）「會津八一の魅力」 60人
- ⑩特別養護老人施設主催「穂波の会」講師：喜嶋学芸員 穂波ホール
7月17日（金）「會津八一と新潟 ーふるさとを愛した文人ー」 70人
- ⑪市民文化サークル「カトレア会」 講師：湯浅学芸員
9月5日（土）「會津八一の魅力」 11人

（巡回展）

- ①第2回写真コンテスト入賞入選作品 巡回展（胎内市）
会期：10月16日（金）～18日（日）
会場：胎内市産業文化会館 企画展示室
概要：胎内市會津八一記念事業実行員会、胎内市教育委員会、当館との3者共催

- ②西堀ローサ内 まちなか情報広場
會津八一について紹介展示

（エ）学習講座（参加者負担）

- ①「書に親しむ」（クロスパルにいがた 毎月1回）講師：野中浩俊氏（新潟大学名誉教授）
・第1回 5月 9日（土）「書とその周辺」 受講者 99人
・第2回 6月 6日（土）「鑑賞のマナー」 64人
・第3回 7月 4日（土）「現代の書」 65人
・第4回 8月22日（土）「會津八一の書」 62人
- ②會津八一の歌を読む会（砂丘館 毎月第1土曜日 受講者20人）講師：若月忠信氏（文芸評論家）

（オ）イベント

- ①「會津八一の歌を映す」第3回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費2,217,242円）
・公募期間 4月から11月13日（作品搬入11月6日～13日）
・応募点数 79点
・応募人数 54人（県内24人 県外30人）
・審査委員 浅井愼平（委員長）、大橋一章、小川光三、和泉久子、神林恒道の5氏
・審査会 12月6日 14時～17時 ホテルオークラ
・審査結果 秋艸道人賞に燕市の赤塚一さん
奨励賞5人は県内2人、奈良県1人、埼玉県1人、福島県1人
入選は18人（県内7、大阪3、東京2、奈良2、埼玉、神奈川、愛知、福岡各1）
・記者発表 12月7日（月）午前10時30分～
新潟県政記者クラブ 浅井委員長、神林館長、武藤事務長
・授賞式・作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）
22年2月6日（土）午前10時30分～12時
クロスパルホールにいがた映像ホール 参加人数50人
・祝賀会（参加者負担）
22年2月6日 午後1時～3時 ホテルオークラ 参加者数43人

②第2回會津八一賞「現代に生きる書とは」懸賞学術論文コンテスト（総事業費 965,120 円）

- ・公募期間 2008 年 9 月 22 日～2009 年 12 月 3 日
- ・応募人数 3 人
- ・審査委員 大橋一章（委員長）、野中浩俊、萱のり子、神林恒道の 4 氏
- ・審査会 12 月 19 日 14 時～16 時 會津八一記念館館長室
- ・審査結果 會津八一賞該当者なし
奨励賞（賞金各 10 万円）に小川貴史氏（柏崎高校教諭）と石井健氏（東京学芸大学助手）
- ・授賞式、祝賀会は 22 年 2 月 6 日（写真コンテストと同時開催）

③健康と教養を養う文学散歩「會津八一の散歩道」（参加負担 1 人 500 円）

- ・共催団体 中央区、新潟日報社、北方文化博物館分館
- ・コース 護国神社－會津八一記念館－北方文化博物館分館一古町－西堀 3（瑞光寺＝八一の菩提寺）
- ・解説 若月忠信氏（文芸評論家）、秋艸会役員、武藤事務長
- ・実施日 第 1 回 6 月 6 日 39 人
第 2 回 6 月 27 日 46 人
第 3 回 7 月 25 日 37 人
第 4 回 9 月 19 日 49 人
第 5 回 10 月 17 日 27 人
- ・時間 午前 9 時～正午

（カ）鑑定会（経費：228,030 円）

春の部	5 月 31 日（日）総点数 15 点	認定数 13 点	収入 54 万円	
秋の部	11 月 14 日（土）総点数 22 点	認定数 19 点	収入 79 万円	合計 133 万円

（キ）旅行企画（参加者負担）

- ①「會津八一と高野山」4 日間 4 月 16 日（木）～19 日
神林恒道館長と喜嶋学芸員が同行解説
- ②「會津八一と奈良の世界文化遺産」3 日間 12 月 3 日（水）～5 日（土）
浅田隆奈良大学名誉教授が同行解説

（ク）新収蔵品

- 寄贈 會津八一書「茶熟香清」軸 1 点 會津きい子書簡吉池進宛 5 通
會津八一宛来信書簡 1333 通など 計 1346 点
- 寄託 會津八一筆「秋艸道人詠草」冊子 1 点

（ケ）販売活動

- ・「学規」割引セール 実施期間 21 年度（21 年 4－5 月、22 年 2－3 月）
額装 17 点、未表装 8 点、色紙 214 点 ⇒ 販売合計 619,000 円

（コ）広報活動

- （新聞） 新潟日報＝記事 32 回 広告 57 回（展示 51 回、複製品販売 6 回）
「文化の記憶」45 回（継続中）
- （テレビ）、（ラジオ）は不明
- （市報） 17 回
- （中央区だより） 2 回

（サ）関連の活動

- 毎日新聞社主催「篆刻家 松丸東魚の全貌」展（7 月 8 日～8 月 2 日）
- 収蔵品「松丸東魚書簡 會津八一宛」7 通、松丸東魚刻「秋艸道人」1 点を出品
- ※広報 毎日新聞 記事「印をめぐる風雅な交流」
毎日新聞連載記事「會津八一の生涯」